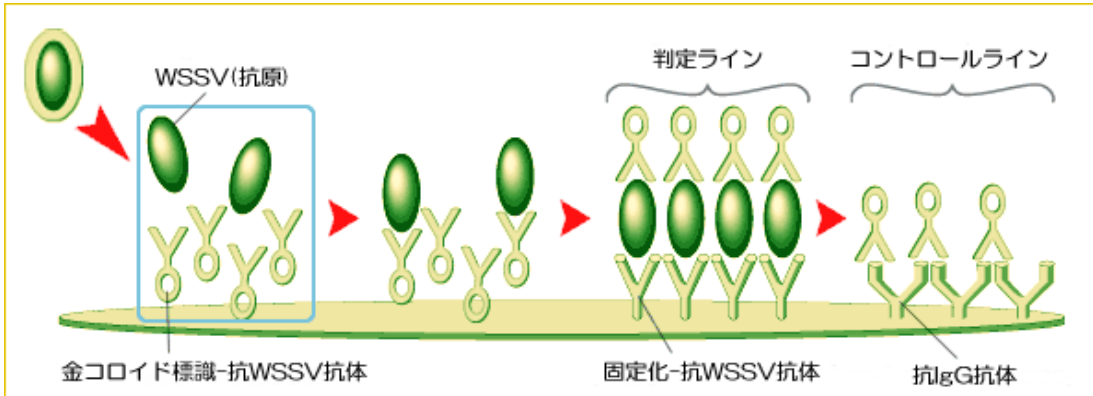


## シュリンブル エビウイルス検出キット

### ■測定原理



「Shrimple」は免疫学的測定(サンドイッチ法)の原理に基づいています。測定デバイスはニトロセルロースメンブレン(以下、メンブレン)とプラスチックケースとからなっており、金コロイド標識した抗WSSVモノクローナル抗体(以下、標識-抗WSSV抗体)を含むパットが、メンブレン上のサンプル滴下部位の隣に配置されています。メンブレンには 標識-抗WSSV抗体とは異なる抗WSSVモノクローナル抗体が固定化してある判定ライン(T-Zone)と、抗 IgG抗体が 固定化されているコントロールライン(C-Zone)があります。

エビの体内にWSSVが存在しない場合、標識-抗WSSV抗体はメンブレン上を毛細管現象で移動し、T-zoneを通過してC-Zoneまで到達します。この場所で標識-抗WSSV抗体はメンブレンに固定化されている抗ラットIgG抗体と結合し、肉眼で確認できる赤色のバンドを形成します。すなわち、赤色のバンドがC-Zoneに一本だけ出現した場合はWSSV陰性と判定できます。エビの体内にWSSVが存在する場合、標識-抗WSSV抗体はWSSVと反応してWSSV-標識-抗WSSV抗体複合体を形成し、T-zoneまで移動します。この場所でWSSV-標識-抗WSSV抗体複合体はメンブレンに固定化されている抗WSSV抗体と反応し、肉眼で確認できる赤色のバンドを形成します。WSSVと結合出来なかった過剰の標識-抗WSSV抗体はT-zoneを通過してC-zoneまで移動し、この場所でメンブレンに固定化されている抗IgG抗体と結合し、肉眼で確認できる赤色のバンドを形成します。すなわち、赤色のバンドがT-Zone とC-Zoneに一本ずつ、計二本のバンドが出現した時は、WSSV陽性と判定できます。